

移住のきっかけ

山下 初めて安曇野に来たのは小学校6年生の時。その時泊まった宿の展望大浴場から見た北アルプスの美しさに、「子どもながらに衝撃を受けました。ずっと安曇野が忘れられず、社会人になつてからは友人と、結婚後は夫と4人の子どもたちと安曇野やその周辺を何度も訪れていました。」

「移住もありだね」となんとなく安曇野への移住を考え始めていた時、建築家の夫に穂高に住んでいる人から仕事の依頼がありました。これも何かの縁だと感じ土地探しを始めました。話すと長いのですが不動産屋さん、現場監督さんなどたくさんの方のおかげで安曇野暮らしをかなえることができました。

三條 私は元々東京で建築関係の仕事に就いていたんですが、体調を崩してしまい、転職を考えていました。そんな時に知人から「安曇野市に持っている家を売ろうかと思ってるんだけど使わないか」と聞かれ「使いたい！」と即答しました。以前から安曇野には何度が訪れていて、景色や自然が気に入っていたことに加え、空き家の活用や民宿経営にも関心があったので、移住を決断しました。今は森の中で仕事していて、少しの休憩時間でもリフレッシュでき、心の豊かさを感じています。

神谷 景色に感動するって、実はあまりないことですね。

山下 そう。感動するんですよ。刻々と変わる山々の景色や四季折々の風景、洗濯物を干していても感動する瞬間がよくあります。

飯島 犬を飼っていて朝晩散歩するんですけど、散歩をしないと見られない景色があるんです。雲海が見えた時には、「これは本当に現実なの」という気持ちになるほど感動します。リンゴの成長を見ていくのも楽しいですし、冬に葉を落としたリンゴの木がピシッと並んでいる様子も美しいです。緑に囲まれた環境の中で暮らせていることに、日々ありがたさを感じています。

飯島 私は長年、飲食業界で働いてきましたが、長野の食材の魅力に引かれ、いつか移住したいと考えていました。仕事の縁で、まずは東京に近い軽井沢へ移住し、レストランで働きながら、「人生あと20年」と考えたとき、夢だった自分の工房を早く作ろうと決意しました。

その年の夏に安曇野を訪れ、光橋から見た快晴の景色に「何これ!？」と思うほど感動しました。その後、市の空き家マッチング制度で条件の合う物件を見つけ、すぐに移住を決めました。

池内 安曇野ガラス工房へ就職したことが移住のきっかけでした。ガラス工房が安曇野にあることは以前から知っていましたが、初めて大学の研修旅へ



移住者座談会 私たちの新しいふるさと安曇野

移住先として多くの人に選ばれている安曇野。この安曇野に移り住んだ皆さんに日々の暮らしや仕事で感じている安曇野の魅力や地域の力を語ってもらいました。

「行で訪れたときに「なんてきれいな場所なんだろう」と感じました。工房の前を流れる川にはきれいなトンボが飛んでいて、昆虫好きの私には、とても魅力的な景色でした。その印象が強く残っていて、卒業と同時に「ここへ行くしかない」と決意し、現在に至ります。また、今の住まいと工房を市の空き家バンクで見つけることができたことも大きかったです。

神谷 大学ではデザイン系を専攻していたこともあり、北アルプス国際芸術祭をきっかけに、初めて観光で安曇野を訪れました。ここはありのままですごくいい環境だなと思いました。移住前は愛知県に住んでいて、奥三河にある豊根村の「花祭」という鬼の姿をした神や人が同じ舞台で共に踊るお祭りが好きで、何度も訪れていました。そのお祭りに漂う神も人間も自然もすべてが「対等」であるという考え方がとても好きでした。安曇野を訪れた時、まさにその「対等」が日常の暮らしの中に息づいていると感じ、「ここに住みたい」と思いました。

感じた「安曇野の魅力」、地域とのつながり。

山下 やっぱり一番は景色とおいしい水と農産物。それと聞き上手話し上手な安曇野の皆さんだと思います。

「ださり、教えるのが大変でしたがとても楽しくて、参加者から「久しぶりにこんなに笑った」と言ってもらえました。移住して3年くらいなんですけど、こういう場を提供していただけたのはありがたかったです。このイベントのあと、散歩中に「あの時は楽しかったよ」と声をかけていただくことが増え、地域に受け入れてもらえている実感があり、すごくうれしいです。

山下 そういう経験があると地元の一員になれたかなと実感できてうれしいですね。

神谷 引っ越してきたばかりのときは、周りの人に受け入れてもらえるのが不安になりますよね。

三條 私も民宿の経営を通じて知り合った地元の人々がすごく親切にしてくれて「これも食べるでしょ」と言ってお食料を持ってきてくれたり、話も聞いてもらえてとてもありがたいです。また、現在行っているガイドの仕事は移住者が経営しているので移住者同士で助け合えるつながりがあることも実感しています。

池内 私の住む地域では、農業のやり方を教えてくれる人や、作物を分けてくれる人など、すごく温かい人が多いです。なので、私も地域の歴史や、こ



飯島 面倒見がいい人が多いですね。今年の1月に地元の婦人会料理教室で講師を務め、そば粉のクレープを作りました。30人くらい参加してくゝ



池内 康祐さん
(豊科高家・埼玉県出身)
2011年移住。ガラス造形作家・大学講師。自宅の作業場で制作活動を行いながら、子育てを楽しんでいる。



山下 美鈴さん
(穂高柏原・和歌山県出身)
2011年移住。合同会社ベースキャンプ安曇野代表。ライフワークとして移住相談を行っている。